シマフクロウの生態

フクロウ類の飛び方

シマフクロウ保護・研究家　**山本純郎**

フクロウ類の飛び方は大きく分けて直線的か波形を描くかである。直線的の中に羽ばたきと滑空があり、これを取り混ぜて行なうのがふつうだ。シマフクロウは長距離移動の場合は羽ばたきと滑空を繰り返して飛行する。例えば数回羽ばたいて滑空、下降すれば羽ばたいて再び上昇する。ただしこの飛行は障害物のない水面上や高所からの移動時に使用している。林内では比較的ゆっくり羽ばたいて樹間を移動している。また上昇気流を利用することもあるが、高く舞い上がることはない。以前ワシミミズクが高所から全く羽ばたかず滑空だけで 500m 以上を飛行するのを目撃したことがある。シマフクロウではこんな長い距離の滑空は観察していないが、翼面積の広い種類はこのような飛行方法をとるだろう。また渡りを行なう種類も同様の飛び方をしている。飛行しながら獲物を探すことの多いトラフズクやコミミズクはゆっくり羽ばたきながら比較的直線的に飛行している。コミミズクはこれに加えて上空高く舞い上がりホバリングしながら獲物を探している。またホバリングは時間の長短はあるがすべての種が行なう。

小型のフクロウも羽ばたき飛行が主体であるが、スズメフクロウは樹木にそって羽ばたきながら垂直に飛行することも出来る。波形を描いて飛行するのはコキンメフクロウで、羽ばたいて上昇し翼を閉じて下降　これの繰り返しで飛行する。しかし短い距離ならば羽ばたきだけで飛行している。

滑空飛行（夜間）

滑空と羽ばたき飛行

事務局便り

●当会顧問の山本純郎さんが皆さんの質問にお答えします。　普段気になっているシマフクロウのこと、何でも結構ですので事務局までお寄せください。お待ちしております。

●入会を募集しています。引続き当会の趣旨にご賛同いただける個人の皆様の入会を募集しております。ホームページからも入会の手続きが可能となっておりますのでご覧ください。

北海道シマフクロウの会　事務局　〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 北海道二十一世紀総合研究所 内
（担当：米谷・山内・北口）　TEL 011-231-8681　FAX 011-231-8683　URL:hokkaido-shimafukurou.org

平成 30 年 4 月 25 日発行／発行：北海道シマフクロウの会／印刷：株式会社ほくでんアソシエ／誌面デザイン・イラスト・DTP：中島祥子

北海道 シマフクロウ通信

北海道シマフクロウの会　会報

第18号

分散開始 1 日前の若鳥　　写真：山本純郎

谷折り

円山動物園のシマフクロウの飼育状況について

札幌市円山動物園飼育展示課　飼育展示二担当係長　**石橋 佑規**

円山動物園では、北海道の生物多様性保全の取り組みの一つとして、シマフクロウやオオワシをはじめとした北海道の猛禽類の飼育下繁殖技術の確立、傷病猛禽類のリハビリテーション知見の蓄積、将来的な飼育下個体群を用いた野生復元技術の確立を目的として、2010 年に非公開の猛禽類野生復帰施設（以下「野生復帰施設」）を建設いたしました。野生復帰施設は、トレーニング用フライングケージ、オオワシ繁殖ケージ、シマフクロウ繁殖ケージから構成されており、2014 年には中小６つのケージを備えた猛禽類繁殖研究棟が増設され、これらの施設を活用して、様々な猛禽類の繁殖技術の確立に向けた知見の蓄積や傷病個体のリハビリテーション技術の向上に努めているところです。

シマフクロウについては、2012 年よりリスク分散および飼育下繁殖を目的として釧路市動物園より飼育下繁殖個体（2010 年生まれ、雄　愛称：クック）を、さらに 2014 年には同園から野生傷病保護個体（2010 年生まれ、雌　愛称：レイン）をお預かりし、野生復帰施設のシマフクロウ繁殖ケージにて非公開で飼育を行っております。

飼育管理に関しては、飼育開始以後、安定的な飼育技術の知見の蓄積を進めるとともに、個体が性成熟に達するのを待ち、2016 年より飼育下繁殖に向けた取組みを開始しております。2017 年は産卵には至らなかったものの、初めての交尾が確認されました。

また、2018 年においては、残念ながら今のところ産卵はありませんが、１月から鳴き交わしや交尾などの繁殖行動が見られるようになり、その頻度も前年に比べて大幅に増加するなど、年々繁殖行動の成熟が見られており、今後の繁殖に期待が持てるところまで来ています。

当園としても、シマフクロウの繁殖は悲願であるため、複数のカメラを設置し、夜間の観察記録を行っているほか、傷病保護個体であり、うまく飛ぶことが出来ないレインに合わせて巣箱をレイアウトしたり、巣内での様子に合わせて巣内の造作を調整したりするなどの工夫を行っています。また、繁殖行動を強く誘起するため、繁殖シーズンには活魚を給餌するといった取り組みも行っているところです。

また、昨年 11 月には、より活動的な夜間のシマフクロウの姿をお客様にご覧いただけるよう、屋内観覧場所があるエゾシカ・オオカミ舎内にモニターを設置いたしました。シマフクロウを飼育する野生復帰施設は非公開であるため、週に１度のガイドツアーでしか、お客様に見ていただくことができませんでしたが、このモニターで、夜間のシマフクロウの活発な様子をご覧いただけるようになりました。

今後も、北海道の象徴的な生き物の一つであり、また、絶滅が危惧されるシマフクロウの保全のため、継続的に繁殖技術の確立にむけた取り組みを進めるとともに、お客様にシマフクロウの生態や彼らを取り巻く環境について興味を持っていただけるよう取り組んでまいりたいと思います。

野生復帰施設で飼育中のシマフクロウ　クック
（雄７歳：３月末現在）

シマフクロウ四方山話 7

十勝ブランデー「島梟」の誕生

北海道シマフクロウの会会長　**横内 龍三**

本年２月、国分北海道株式会社（黒澤良一社長）から、北海道十勝産のブランデーが発売されました。その商品名（登録商標）が、何と「島梟」と命名されたのです。同社の小林泰之常務執行役員と大谷武史執行役員マーケティング部長からお話しを伺いました。同社は北海道の地で事業展開を行っていく中で、社会的責任を果たしていくためにも、この新商品には北海道に所縁のある名称を冠としたいということで、いろいろ議論を重ねられた結果、北海道にのみ生息する絶滅危惧種の鳥で、古くからコタンコロカムイ（村の神）としてアイヌの人々から崇められてきたシマフクロウに白羽の矢が立ったということです。シマフクロウの凛とした高貴なイメージが、長年に亘り醸し出された貴重なブランデー原酒のブランド名として相応しいとの声が多かったそうです。

オリジナルブランド「島梟」は、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所において 30 年以上の年月を経て樽熟成された原酒を用いて開発された新商品で、「一般向け」と「プロ向け」（バーテンターの方々の意見を聞いて開発したアルコール分 60 度の製品）の２種類が販売となりました。初回販売の「一般向け」440 本、「プロ向け」470 本は、売り出しと同時に完売となったそうです。私は、桑園のイオンの酒類売り場で運よく「一般向け」１本を手に入れました。ブランデーの棚には、「ご希望の方はレジまで」とのカードの掲示がありました。お値段は少々張りますが、熟成 30 年の「島梟」は、皆様にきっと至福のひと時をもたらしてくれることでしょう。

さらに、国分北海道株式会社におかれては、同社の社会的貢献活動の一環として、「島梟」の売上金より１本につき 200 円を、当「北海道シマフクロウの会」にご寄付くださることとなりました。同社のご厚意に深く敬意と感謝の意を表するとともに、シマフクロウの保護活動のために有効に利用させていただきたいと存じます。

十勝ブランデー「島梟」入手等に関するお問い合わせ先
国分北海道株式会社　マーケティング部
ＴＥＬ　０１１－３５０－６３０９

事務局より

今年も「シマフクロウ一家の見守り日記」が開設されています！

前回、北海道シマフクロウ通信第 14 号（H29 ／４）でご紹介した、当会顧問の北海学園大学早矢仕教授と当会連携先である「しまふくろう会議」により運営されている、ウェブサイト「シマフクロウ一家の見守り日記」の 2018 年版が開設されています（早矢仕顧問のコラムも掲載しています）。今年のページを見るためにはＩＤ・パスワードが必要ですので、次の当会会員用のものでログインしてください。会報がお手元に届く頃には可愛い雛が見られるかも知れません。（ＩＤ・パスワードは会員限りとしてください）

イラスト：森さやか

URL：http://k-rms.info/rmsdir/contents/owl_mon/top.html
ＩＤ　：ezofukurou
パスワード：fuku0933

谷折り